

琉球・沖縄
年中行事?なんでも!
Q&A

ヒヌカンのマースの数



●Answer

さんにおういん きゅうようじ ぜんじゅうしよく
 沖縄市・コザ山仁王院 球陽寺 前任職
 帰依 龍照(きえ りゅうしょう)

Q

先日、仏壇屋さんでヒヌカンのマースの山盛りが簡単にできる道具を買いました。富士山のようない見事な小山ができたのですが、それを見た姑から「うちのマースは、一つじゃなく三つよ」と注意されました。私の実家は昔から一つで、山盛り三つなんて聞いたことがありません。一つと三つ、どちらが正しいのでしょうか？
 (恩納村・Mさん・40代・女性)

A

Mさん、お嫁さんとして頑張られていますね。私たちの沖縄では、しきたりの奇数論という考え方があり、いろいろな儀式・法要・年中行事で、一なのか三なのか、先輩方のご意見が分かれてくる永遠のテーマがあります。

一と三の奇数論

例えば、お葬式の焼香のとき、使用するのはヒラウコウや線香ではなく、抹香(まつこう)という刻んだお香です。お香は香木(こうぼく)という樹木が原材料ですので、香木を削った抹香を使用することにより、人生最期の儀式にあってより原点に、より自然に近いもので故人様を偲ぶという考え方に由来します。

この抹香での焼香のとき、沖縄では三回を敬う方々が一般的です。三回と

は、天・地・仁(水)をさし、その意味を、ある方は儒教思想によるといい、またある方は森羅万象によるといいです。ところが、ご供養を担当されるご寺院様の宗派によっては、焼香は一回に集中して真心をお届けするという考え方が一回で行われたり、火葬場では次の方々のため、葬儀社の方が一回焼香でスムーズに行いましょうなどと案内されることがあります。

この一回と三回は、いずれも奇数です。沖縄のしきたりで奇数を重んじるのは、二で割り切れないことから、割り切れない↓ジンブンでは割り切れずはかりしれない↓想像以上にはかりしれず大切なもの、という考え方により、このはかりしれず大切であるという畏敬の思想から、神仏やウヤファーフジに対して奇数を重んじる文化ができたといえます。

また、沖縄では、専門用語で、『対象の具現化』という考え方があり、目に見えないものを目で見えるもので代用するとき、一・三・五・七・九の奇数を用いることがあります。

奇数を用いる
ヒヌカンのしきたり

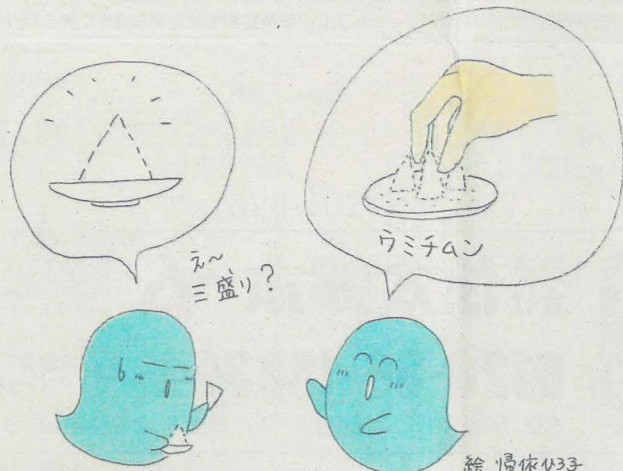
台所をつかさどるヒヌカンのしきたりとして、目に見えないミーヒヌカンのガナシーメー(火の神様の

敬称)を自宅の竈にお迎えするときに、御拝所や実家や自宅などの屋外にある、目で見える石ころ三個を拾い上げ、丁寧に竈の脇にウチケーして、ヒヌカンとしてお祀りする慣習があったといえます。

このしきたりのことを、三個の石ころ↓三個のもの↓御・三・物↓ウミチムンといい、現在でもヒヌカンの別名として、沖縄のしきたりに詳しい方々の間で言い伝えられています。この名残から、ヒヌカンのマースの山盛りの数も、ウミチムンの三つにあやかる伝統的な慣習となり、山盛り一つが主流の中、今でも三つを丁寧山盛りされているご家庭があるというわけなのです。

三つの山盛りとは、小皿の中、中指と人差し指と親指を用い、マースを三つの小山にするといったイメージです。もちろん、Mさんのご実家の一つの山盛りも、一山(ひとやま)の意味として、ヒヌカンに、イッペーニフェーデービル(とても(ひとやま)たくさん)感謝しています)という敬意を表現していただきますので、とても素晴らしいと思います。

今回のMさんへのご回答としては、一つも三つもどちらも正解ということになりますね。一つも素晴らしいしきたりなのですが、今まで三つの山盛りのマースに慣れられたヒヌカンを受け継がれることになりそうですので、お義母さんからMさんに交代された瞬間、「えっ? 今回、マース……少ないかも??」って、ヒヌカンに思われないうよう、継続して、山盛り三つをお供えされるのが無難かもしれませんね。沖縄のお仏壇屋さんには、マースを一つ盛りできるお道具もありますが、三つ盛りできるお道具もあるようですので、両方、ご準備されるといいかもしれませんね。



絵: 帰依433

帰依 龍照(きえ りゅうしょう)

1968年岡山県出身(52歳) / 学歴: 岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒 / 専門分野: 哲学(宗教哲学) / コザ山 仁王院 球陽寺(京都創建・正嘉2<1258>年[鎌倉時代]・沖縄移転・昭和36<1961>年)・第18代住職 / 沖縄県宗教研究会・理事長 / 沖縄県内にて年間多数の住宅・墓の起工式(地鎮祭)を担当しつつ、行政・企業・学校における「琉球・沖縄のしきたり」に関する講演活動を行う。娘1人と息子3人の父親。

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。